

令和５年度福岡市早良保健所運営協議会議事録

1. 日 時 令和５年８月３１日（木） １８時３０分～１９時４３分

2. 場 所 福岡市早良保健所 講堂

3. 出席者 石橋委員、石本委員、井藤委員、岩井委員、梅野委員、緒方委員、田邊委員、長委員、
椿委員、とみなが委員、中委員、中山委員、蓮尾委員、平山委員、藤田委員、牧角委員、
吉田委員

（以上１７名、五十音順）

欠席者 荒木委員、壽崎委員、森田委員

事務局 向井所長、平川健康課長、中島衛生課長、竹廣地域保健福祉課長

傍聴者 なし

4. 開 会 定足数確認（委員２０名中１７名出席）

5. 保健所長挨拶 向井所長

6. 委員紹介

7. 保健所職員紹介

8. 議題１ 会長・副会長の選出について

事務局の提案に対し出席委員の承認により、会長に中山委員、副会長に牧角委員を選出

9. 議題２ 令和４年度事業報告について

平川健康課長、中島衛生課長、竹廣地域保健福祉課長が説明

【質疑応答】

委 員 ６ページ「ア 感染症発生状況」について

梅毒の発生件数は令和３年度に比べ令和４年度は倍以上となっているが、その原因及び
令和５年度の状況について教えてほしい。

事務局 全国的に増加しており、令和５年度は８月２１日現在で早良区の発生件数は２１件であ
る。増加の明確な理由についてお示しできないが、ＳＮＳやマッチングアプリなどによ
る、不特定の方と出会えるという背景も関係しているのではないかと考えられている。

委 員 9 ページ「① 子育て世代包括支援センター」について

「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」とあるが、具体的な支援内容について教えてほしい。

事務局 健康課で妊娠届を受け付け、母子健康手帳の交付を行っているが、その際アンケートをとっている。その回答内容についてアセスメントをする中で、支援が必要な妊婦の早期把握に努めている。その後、対象者について健康課、子育て支援課、地域保健福祉課の3課で協議し、役割分担しながら支援している。必要に応じて3課以外の関係機関とも連携を取りながら、どのような支援が必要か検討しながら支援している。

委 員 11 ページ「ア 特定健診・特定保健指導」のグラフについて

早良区は受診率が毎年市内で1～2位である理由は何か。

事務局 平成24年度から区関係課で受診率向上プロジェクト会議を立ち上げ、健診の在り方や広報について検討を重ねている。また特定健診実施医療機関や校区各団体等の協力により、継続受診者が定着していることが市内で高い受診率を保っている理由と考える。

委 員 11 ページ「イ がん検診等」について

子宮頸がんの検診ではなくワクチン接種による副反応について、保健所は報告を受けているのか。

事務局 子宮頸がんワクチンだけでなく、各種予防接種等の副反応の相談は対象者のお住いの管轄の保健所で受けることとなっている。その後必要に応じ、書類を作成し、厚生労働省に提出する流れである。昨年度、数件の予防接種の副反応に関する相談を受けている。

委 員 15 ページ「①監視指導等 イ 行政検収等結果」について

レジオネラ問題に関し不適格施設の監査、営業改善指導の取り組み内容、営業停止事例の有無、営業停止の判断について教えてほしい。

事務局 循環式浴槽のある入浴施設について、全施設、年1回採水検査を行っている。もしレジオネラ属菌が検出された場合は、設備の洗浄・消毒を指導し、再検査にて陰性であることが確認された後に使用再開とする対応を行っている。本市では現時点において営業停止に至った事例はない。入浴施設の利用者から複数の患者が発生し、このまま使用を継続すると健康被害が拡大する恐れがある場合は営業停止処分の対象となる。

10. 議題3 令和5年度主要事業について

平川健康課長、中島衛生課長、竹廣地域保健福祉課長が説明

【質疑応答】

委員 27 ページ「③ おむつと安心定期便」について

サポートを要する家庭の察知やその後のつながりを持つための努力などどのような支援をすべきか、所見を伺いたい。

事務局 生後 1～3 ヶ月の乳幼児がいる家庭は、育児用品と交換できるスタンプを受け取る際にアンケートの提出が必要であるが、行政がそのアンケートの回答を確認することで、育児の状況や育児における心配事等が把握でき、要支援者の把握が可能となる。また行政からの連絡を希望する場合は、速やかにコールセンターから連絡し、現状を確認し育児相談に応じている。一般的な相談の場合は、一度で終了するが、継続的に支援が必要な家庭については、区に情報提供され、家庭訪問等で継続支援を行うようになっている。その後のつながりを持つための支援としては、こどもプラザ等の利用時や公民館等で実施されている子育て交流サロン等の参加時にもスタンプがもらえるようになっているので、それらの施設との連携をより充実し、要支援家庭の早期把握と必要な支援の充実を図っていくことが必要と考えている。

委員 28 ページ「特定健診・特定保健指導、がん検診」について

特定健診のより受診率向上のための取組みはどういうものがあるのか。実情にあった健診とはどのようなものか。

事務局 来週 9 月 5 日に受診率向上プロジェクト会議を開催予定で、関係課でアイデアを出し検討する予定。また、特定健診の受診場所の 8 割が医療機関のため、医療機関での受診者数を少しでも増やす目的で、関係課の職員が特定健診実施医療機関を訪問し、医療機関から患者様への受診勧奨をお願いしている。さらに南部地域での受診者を増やすために、今年度はともてらす早良での健診回数を 3 回から 4 回に増やしている。実情にあった健診とはどういうものかのご質問については、医療機関の少ない地域で校区がん検診を実施するなど、地域の実情を考慮し、特定健診やがん検診等を受診しやすい環境整備を進めることが必要と考えている。南部校区の受診率はどの位かのご質問について、今各校区の受診率は持ち合わせていないが、ともてらす早良での受診者数は昨年度平均 41 名で、保健所の平均受診者数と同程度に達している状況。

委員 南部地区の方の受診をしやすいするため、ともてらす早良でも健診を行っているとのことだが、南部地区以外の方は受診できないのか。

事務局 特定の校区を対象としているわけではなく、他の校区の方であってもともてらす早良で健診を受けることは可能である。

委員 30 ページ「④虐待ハイリスク家庭への個別支援強化」について

養育支援家庭訪問事業とはどのような事業か。導入件数の推移はどうなっているのか。また訪問困難事例はあるか。

事務局 養育支援家庭訪問事業とは、平成 16 年 10 月から開始した事業で、地域における児童虐待未然防止等のために養育の支援が特に必要と判断した家庭に対して、子ども家庭相談員が定期的に訪問し、養育に関する相談や指導・助言等必要な支援を行う事業である。早良区地域保健福祉課では、年間、平均して 10 世帯程度の家庭に子ども家庭相談員を派遣している。介入を拒否したり、あるいは連絡が取れないなど対応困難な事例については、区の関係課、あるいは保育園、幼稚園、医療機関といった関係機関と連携を取りながら、支援を行っている。

【意見・要望】

委員 おむつと安心定期便について、おむつを定期的に渡すという事だけでなく、これによって地域とつながるということが目的の事業なので、是非その点をお願いしたい。「ヘルプを発信してもいいんだよ」と伝えても、それでも発信できない人もいる現状があるので、そのような人にも支援が届くようにお願いしたい。

11. その他（報告事項等）

新型コロナウイルス感染症発生状況
平川健康課長が報告